

I211 数理論理学

横山 啓太 (y-keita@jaist.ac.jp)

第 10 回 : 述語論理の完全性定理

LKの完全性定理

命題論理のときと同様に、次の完全性定理が成り立つ。

定理 (完全性定理 completeness theorem)

\mathcal{L} -理論 Γ と \mathcal{L} -文 φ に対して

$$\Gamma \models \varphi \Leftrightarrow \Gamma \vdash_{LK} \varphi.$$

すなわち、次の二つが成り立つ。

- 1 健全性定理 *soundness theorem*:
 $\Gamma \vdash \varphi$ が LK で証明可能ならば $\Gamma \models \varphi$.
- 2 完全性定理 *completeness theorem*:
 $\Gamma \models \varphi$ ならば $\Gamma \vdash \varphi$ が LK で証明可能.

系 (完全性定理)

\mathcal{L} -文 φ について次は同値である。

- 1 φ は LK で証明可能である。
- 2 φ は恒真である。

LKの完全性定理（別表現）

命題論理のときと同様に、次の補題も成り立つ。

補題

\mathcal{L} -理論と \mathcal{L} -文に対して次が成り立つ。

- 1 $\Gamma, \neg\varphi$ が矛盾 $\Leftrightarrow \Gamma \vdash \varphi$.
- 2 Γ, φ が矛盾 $\Leftrightarrow \Gamma \vdash \neg\varphi$.
- 3 Γ が矛盾 $\Leftrightarrow \Gamma \vdash \varphi$ かつ $\Gamma \vdash \neg\varphi$.

これを用いて、完全性定理は次の形でも表現できる。

定理 (完全性定理の別表現)

\mathcal{L} -理論 Γ について

Γ は無矛盾 $\Leftrightarrow \Gamma$ は充足可能（モデルを持つ）。

コンパクト性定理

定理 (完全性定理の別表現, 再掲)

\mathcal{L} -理論 Γ について

Γ は無矛盾 $\Leftrightarrow \Gamma$ は充足可能 (モデルを持つ).

無矛盾性の定義と証明の有限性から,

Γ は無矛盾 $\Leftrightarrow \Gamma$ の任意有限部分集合は無矛盾.

が成り立つことに注意すると, 完全性定理の別表現は次のように言い換えられる.

定理 (コンパクト性定理)

\mathcal{L} -理論 Γ について

Γ は充足可能 $\Leftrightarrow \Gamma$ の任意有限部分集合は充足可能.

コンパクト性定理の応用

コンパクト性定理の特徴

- 完全性定理の単純な帰結だが、LKの証明可能性について一切言及がない。
- 数理論理学、特にモデル理論の根幹をなす定理である。
- 応用は数理論理学全般において多岐にわたる。

次の自然数論の超準モデルとよばれるものの存在は、コンパクト性定理を応用する典型例。

定理 (自然数論の超準モデル)

$\mathcal{L}_1 = \{0, 1; +, \cdot; \leq\}$ とし、 \mathbb{N} を \mathcal{L}_1 -構造

$$\mathbb{N} = (\mathbb{N}; 0, 1; +, \cdot; \leq)$$

とみなす。このとき、 \mathcal{L}_1 -構造 $M \models \text{Th}(\mathbb{N})$ で \mathbb{N} と同型でないものが存在する。

(ここで $\text{Th}(\mathbb{N}) = \{\psi \mid \mathbb{N} \models \psi, \psi \text{ は } \mathcal{L}_1\text{-文}\}$.)